

学校と
家庭と
地域を



つなぐ



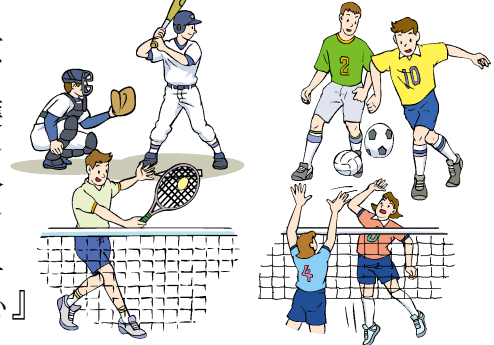
三島市立山田中学校

※学校ホームページのブログでもご覧になれます。

中体連はじまる

中学校総合体育大会が、スローガン『感動ある大会にしよう』・・・「挑戦」「友愛」「自立」・・・を掲げて、6月9日(土)の陸上競技東部大会からスタートしました。中学3年生にとって最後の部活となる中体連大会や、コンクールが始まっています。

山田中生は、全力を出し切って競技をしたり演劇をしたりすることで、共に頑張ってきた仲間と保護者と一緒にできる『喜び』や、支えてくださった皆様への『感謝の心』を表しています。そして、持てる力を出し切り全力を尽くした者だけが味わえる「さわやかさ」を満喫しながら、全力を尽くした者だけに見える新たな目標に向けて進もうとしています。そこには、部活で培った『技術と体力』、『集中力』や『頑張る心』が大きな推進力となります。



保護者の皆様、地域の皆様、山田中生へのご声援をよろしくお願い申し上げます。(中体連三島大会の各部対戦表や予定は後日配布いたします。また、学校ホームページのブログからもプリントアウトできます。)

本年度の学校経営

学校経営目標を『自分の生き方を求め、計画的な努力を通して確かな学力を身につけた生徒』とし、3年目の実践となります。この中で、第一の具体策は「授業改善」です。これは子どもたちの「学ぶ意欲」と「表現力」を高めることにより、「学ぶおもしろさを実感できる授業」を目指しています。

一方、「授業改善」を支える本校の取り組みとして、学ぶ必要性を見出す「職業希望の育成」と、学力の定着を図る「家庭学習の充実」をあげています。

本校では、自分の「将来の夢」と「学習(努力すること)」を結びつけ、自分なりの『学ぶ意義』を見だし、努力する(頑張る)生徒を目指しています。その『生き方を求めて学ぶ(努力する)』具体的な生徒の姿を、「将来の自分の夢を語るができる」とか、「家庭学習をしっかりと行っている」、「生活態度(あいさつや服装、清掃)がしっかりと行っている」生徒ととらえています。

本年度も、本校教育活動に皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



山田中三つの取り組み

(1)「学ぶ意欲・表現力を高め、確かな学力を身につけた生徒の育成」

学ぶおもしろさを実感し、自ら意欲的に学ぼうとする生徒を育て、さらに、自分の考えをことばで表す表現力を育てるために授業改善を行っています。また、生徒がお互いを認め合い、高め合うことができるように、人間関係を築くためのスキル学習を進めています。

(2)「自ら進んで家庭学習に取り組む生徒の育成」

家庭学習の習慣を身につけるために、教科での課題はもちろん、学年ごとの課題を毎日の宿題として設定し、継続的に取り組んでいます。また、教科ごとの予習・復習の仕方やテスト勉強の仕方、学習計画の立て方等、学年の生徒の発達段階に合わせて指導しています。さらに本年度は、夏休みの補習学習にも力を入れます。

(3)「将来の自分の生き方を語り、夢に向かって挑戦する生徒の育成」

将来の自分の夢を育てるために、三カ年を見通したキャリア教育を推進しています。進路意識の高揚を図る進路学習の中に、職業講話や進路講話を計画的に取り入れ、「学ぶこと」と「生きること・働くこと」をつなぐ視点から推進しています。

「学ぶ(努力すること)」が「生きること、働くこと」につながるように、家庭や地域社会・企業と協力して、キャリア教育を推進します。



お詫びとお知らせ

先日（6月22日）には「大雨警報及び洪水警報の対応について」の連絡をフェアキャストで流しましたが、連絡が届かないご家庭があり大変ご迷惑をおかけしました。これからは、フェアキャストで流した連絡内容を同時に学校ブログにも掲載したいと思います。連絡が届いたら、必ず送達確認を返信してください。メールアドレスを変更した場合は、各自再登録をお願いします。

JR東日本硬式野球部の堀井哲也監督をお招きして職業講話を行いました。



6月15日（金）、昨年度都市対抗野球大会で優勝したJR東日本硬式野球部の堀井監督をお招きして職業講話を行いました。

堀井監督は、次のような内容でお話しをされました。

『これから社会に出られる若い人に、自分の生き方を考える参考になればと思い、社会人野球という狭い世界からですが、私の思いを皆さんにお伝えします。

一つ目は、プロ意識を持つこと。プロ意識とは、お金を払う人（お客様）を満足させること。JR東日本では、社員やその家族、会社のある地域の人に満足感、勝つこと、感動を分かち合うこと、これが社会人野球、我がチームの存在価値です。

二つ目は、「〇〇を通して社会に貢献すること」だと考えます。「自分のために行う」、これだけでは、「人々と感動を分かち合う」には限界があります。「〇〇のために」という理念背景が必要と考えます。これは、「勝負に勝つこと」についても同じことが言えると思います。「野球を通して社会に貢献する」、こういった理念背景がなければ、今年の都市対抗野球大会での

優勝はなかったと思います。東日本大震災の地域を抱えたJR東日本のチームは、「〇〇のために戦う」チームは強い、このことを示したと思います。社会に出て働くとは、こういった理念背景が大切だと考えています。

また、伸びる選手は、「自分で成長する舞台（成長する過程）」を見出しています。その舞台の中での責任を果たしていくことが、その人をよりよく成長させていくようです。さらに、伸びる人とそうでない人の差は、「素直さ、目的意識を持ち、他を受け入れる素直さ」をもっているか否かだと思います。

「自分を伸ばす舞台を見つけること」、「目的意識を持った素直さを兼ね備えること」、この二つは、社会に出て行く君たち若者に伝えたいと思います。さらに、働くこと（野球をすること）以前の問題として、あいさつをすること、時間を守ることや人のことを考えて行動すること、体力をつけることや技術を磨くことなど、普段の何気ないこと、当たり前のことの「積み重ね」が、良い仕事かどうか（勝敗）を分けているように思います。その時だけの「本気や一生懸命」は大きな舞台では通用しません。

最後に、日本の社会人野球チームが、海外での試合後に拍手をいただくことや、サインを求められることがありました。それは、日本人の試合に臨む姿勢が、海外の人々に感動を与えたからだと思います。これは日本の教育の積み重ねの成果であり、日本の教育のすばらしさであると感じました。これから社会に出られると思いますが、今は、自分の好きなことに挑戦できる時期です。日本人のすばらしさに自信をもって、今を力一杯頑張ってください。野球選手は、とかく、ツキとか、運を考えることが多いわけですが、出会いやチャンスは誰にも平等に訪れるものです。

最後まであきらめないで、自信をもって毎日の生活を「積み重ね」ていってください。』

堀井監督、素晴らしい講話をありがとうございました。